

## 山田小学校だより (Metamorphose)



文責 校長 谷川晴峰

## 本日、全国学力テスト・長崎県学力テストが実施されました！

今日は、表題の学力テストが実施されました。テレビのニュースや新聞報道でも取り上げられると思います。子供たちは、粘り強く取り組んでいました。とても疲れたのではないかと思います。

現時点では、学力テストは3つに分類されます。

全国学力テスト・・・6年生が対象	教科は、国語と算数 (今年度は理科も実施)	4月実施
長崎県学力テスト・・・5年生が対象	教科は、国語と算数	4月実施
平戸市学力テスト・・・全学年が対象	教科は、国語と算数	12月実施

今回のテストは、これまで学習した内容の定着率を確かめる絶好の機会だと思います。年度当初より学校全体で、職員一体となって指導に取り組んできました。誠に残念ながら、昨年度までの本校の成績は芳しくありませんでした。原因を探りつつ、指導方法や課題の与え方について、改善を図ってきました。確実に、指導の成果が上がっていると感じています。

この学校便りでは、近未来に起こるであろう事柄を推測し、危機を回避するための方法や手段、考え方等についてお知らせしていますが、今一つ、切迫感が無いのが現状のようです。遠い未来の話ではなく、まさに「今そこにある危機 (CLEAR AND PRESENT DANGER)」なのだと思います。

これから10年後、今存在している様々な仕事が自動化され、人間の力を必要としない時代が到来するだろうと予測されています。どんなに時代が変わっても、AIに取って代わられることのない仕事ができる人間になることが、最善の選択になります。そのためには、学ぶという「原理」が必要なのです。その先には「応用」と「発展」という次元が待っています。表層的な、薄っぺらな「学力」とは、明らかに質の異なる「学び続け、自己を変革し、創造していく力」を身に付けなければ、淘汰され続け、「格差」と「貧困」という、大きな波に飲み込まれてしまうだけです。

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に、今は存在していない職業に就くだろう」(ニューヨーク市立大学教授 キャシー・デビッドソン氏)との分析が、妙に現実味を帯びています。「65%」という数字は、奇想天外だと思われる方もいらっしゃるでしょうが、今から10年前を考えてみると、ちょうどiPhoneが発売された2007年、その当時、多くの人々は、携帯電話が今のような形に進化するだろうとは、想像できなかつたに違いありません。今の子供たちは、「黒電話」や「公衆電話」を知らないかもしれません。いずれ、スマートフォンでさえ、「過去の遺物」になる時代が到来することでしょう。

「家(うち)の子は、学力よりも運動だ!」という考え方を否定する気は、毛頭ありません。しかし、旅の途上に危険な崖や落とし穴があれば、「その道は危ないよ!こちらの道を選んだ方が安全だよ!」と導くのが、親であり教師であると思います。責務と言っても過言ではありません。

気温の急激な変化で、体調を崩すことも予想されます。「手洗い」と「うがい」を心がけ、「朝ごはん」をガッツリ食べさせてください。「体が資本」であることは、「学力定着」の必須条件です。子供たちの未来のため、「今、何をなすべきか」、「どうすれば豊かな人生」を獲得できるのか・・・答えは明快です。あとは、実践と継続です。10年後に、泣かないために!